

日中平和友好条約締結 40 周年記念
山東省プロジェクト成果普及技術交流会

一般財団法人 日本森林林業振興会
企画部長 坂井 敏純

日本森林林業振興会と中国山東省曲阜市林業局は、平成 24 年から、日中民間緑化協力委員会の助成を受け、荒廃した山地の植林事業「曲阜市孔子文化生態林建設プロジェクト」を実施し、孔子の生誕地である尼山（にさん）周辺の草地化した山地に 6 年間で計 188ha の植林を行うとともに、その実施状況や技術的な解説等を掲載したプロジェクト報告書（中国語）をとりまとめました。さらに、平成 30 年 9 月 5 日には、日中平和友好条約締結 40 周年記念行事として、プロジェクトの成果を発表して中国国内で普及するための成果普及技術交流会を開催しました。

北京や山東省から林業技術者など約 40 名が参加した技術交流会では、張作義曲阜市長の開会の辞に続き、沼田正俊当会会長から「ここまで努力された方々、そして植林活動に参加いただいた皆様方に深い敬意と感謝を申し上げます。本日の緑化技術交流会をさらなる契機として、日中両国、そして日中両国の国民の方々の交流がますます深まることを祈念いたします。」旨の開会挨拶を行いました。また、来賓として、在中国日本国大使館の山本裕介一等書記官から「日中の植林交流の益々の推進を祈念するとともに、本日の交流会が有意義な場となることを祈念します。」旨の祝辞をいただきました。

次に、曲阜市孔子文化生態林建設プロジェクトについて、豊偉曲阜市林業局林業課長からスライドを用いて発表しました。植林の前と後の比較写真、魚鱗坑など石灰岩地帯の植林の技術的な解説等について具体的に発表し、プロジェクト報告書も配布しました。続いて山東省林業科学院から海岸防災林の造成技術に関する発表も行われました。

さらに、特別講演として、沼田会長から「日本の森林・林業」について、スライドを用いて発表しました。かつて荒廃していた日本の森林が人々の努力によって世界有数の森林率をもつに至った経過や、海岸防災林の造成等について、具体的な事例写真等を盛り込みながら解説しました。

午後は、桑庄村のプロジェクト現地を訪れ、地元関係者とともに、側柏（コノテガシワ）約 100 本の植樹を行いました。この植樹活動には、同村の党書記をはじめ、地元の中学生など約 30 名が参加しました。

最後に、これまでの植栽地を訪れ、植栽後の活着状況や管理について意見交換を行いました。水を集めやすい魚鱗坑という植穴に客土するなどの工夫を凝らし、活着率は 93% と良好です。

この成果普及技術交流会及び植樹の様子は、山東省林業庁ホームページで大きく紹介されたほか、曲阜市のホームページに掲載されました。



曲阜市で成果普及技術交流会を開催



力を合わせて側柏（コノテガシワ）を植栽



植樹活動に参加した地元中学生と



2015年植栽地で「日中友好林」の石碑を囲んで